

三遊亭らん丈 後援会会報

「我ら落語家群像」その百三 三遊亭らん丈

遅ればせながら、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

小稿においても、もう何度も触れてきたので今更ながらとは思いますが、今号は一月発行なので、落語家にとっては特別な意味を持つ、元日に始まる初席での出来事を記します。

それは、今年の初席二日目、つまり一月二日のことでした。

始めに申し上げますが、ふだんでも着物で通している噺家はいまやごく稀にしかないことをまずはご承知置き下さい。それでも正月はさすがに別で、元日はもちろんのこと、三箇日は先ず大抵の噺家が、その勢いで中日（五日目）ぐらいま

では多くの噺家が、着物で外出します。

けれど、ごくたまに三箇日でも洋服で楽屋入りする噺家がいるのです。

そのごく少ない噺家の一人が他ならぬ私なのです。私にしろ、一応噺家の端くれですから、せめて三箇日ぐらいは着物で過ごしたいとは思っています。けれど、それをかなわなくさせているのが、唐突で誠に恐れ入りますが、便意なのです。

着物、袴をつけたまま便意を満たせるほど、私は器用ではないのです。朝一番にコトを済ませ、あとはそのおそれがあったくないという、極めて規則正しいお通じがある方ならば、着物を着てもさほどの痛痒は感じないでしょうが、私はそういうわけには行かないのです。出し

抜け、これが大半というのでは、着物で一日を過ごすのは、なにかと不都合があります。

けれど人様は、ひとのおなかの具合までは推し測れません。ですから、二日目浅草演芸ホールの高座袖で、林家ごぶ平師と会つと、どうしてお正月なのに着物を着ていないのと言つ意味で挨拶もそこそこ、「ダメだよ、着物着なきゃ」というお言葉。「すいません。トイレが近いもんで」とはさすがに言いかねました。

この、ごぶ平師の意見はごくまっとうです。けれど、出物腫物とこる嫌わず、という言葉もありますし、着物も大事ですが、腹具合にはかきません。

思えば、江戸時代以前はもとより、昭和の初期までは、日本人たるもの普段着として着物を着るのは、ごく当たり前のことでした。ですからその頃、彼らは着物

2004年2月5日発行
三遊亭らん丈後援会
第21号 頒価100円 〒194-0013
東京都町田市原町田4-10-19-101
【URL】<http://www.ranjo.jp/>
【E-mail】machida@ranjo.jp
TEL 042-732-2004

袴を着用したまま、どのようにして、用を足していたのか、とても気になるので

す。
司馬遼太郎の『翔ぶが如く』という長編小説で、その冒頭に、便意に抗しかねて汽車の座席で脱糞をするシーンがあります。まさか、当時の人は皆そのように

して用を足していたとは思えませんが、袴を着用していた方はどのようにしてこ

とを済ませていたのでしょうか。
つくづく昭和の後半に生を享けてよかったですと思う、初席での出来事だったのでした。(『民俗芸能』平成十六年一月号より転載、既発行分はらん丈HP掲示)

『映画「ミスティック・リバー」を観て』 三遊亭らん丈

自分が専門としない分野において、信頼できる批評家を見出すことが、その分野で素晴らしいものを容易に見出す、最も手っ取り早い方法でしょう。「餅は餅屋」といいますから。

たとえばぼくにとつてそれは、俳句における山本健吉であり、ジャズ批評における寺島靖国や小川隆夫、文明批評における山崎正和、スポーツ評論における二宮清純、といった方々です。この人が薦めるのだから、まず間違いのない、そういう評者を見つければ、しめたもので

す。
それは取りも直さず、その評者と自分の間に、共有するものが多い、ということなのです。

作家の沢木耕太郎が朝日新聞夕刊に毎月一回「銀の森へ」というタイトルで連載している映画評を、ぼくは大層頼りにして、観たい映画が決まらないときには、沢木が「銀の森へ」で取り上げた作品を当てにして映画館に足を運ぶようにしているほどです。

一月に沢木が取り上げていたのが、『ミスティック・リバー』だったのです。そもそもこの『ミスティック・リバー』という映画、あまりに前評判がいいのです。なかには、はやくも二〇〇四年のベスト作品と推す評論家もいるぐらいですから。

評論家は褒めたり貶したりするのが商売とはいえ、この作品がゴールデン・グ

ロープ賞主演男優賞、助演男優賞の二冠を獲得していることから、あながちリップサービスばかりとも思えません。

たしかに、評判に違わぬ素晴らしい作品でした。ある一点を除いては。

この作品を一言で表わせば、沢木の記すとおり、「静謐な」作品とよぶことができるでしょう。始めから終わりまで、沸騰する感情が渦巻く劇的な展開であるにもかかわらず、一貫して「静謐」であり続けます。

ぼくは、この映画を、ギリシア悲劇に擬したくなったのです。それは、人智では抗えない「運命」を、監督のクリント・イーストウッドがメッセージとしてこの映画に籠めたからなのです。

映画は、ボストンの郊外で遊ぶ三人の少年が、その後長く痕跡をとどめてしまっていたらをするところから、始まります。その日も、少年だけが持つ「黄金の日々」の中のありふれた一日を、終わらせるはずでした。ところが、そのいたずらがもとで、その中の一人だけが、二人の男にかどわかされ、四日間にあたり凌辱をつけてしまつのです。

その後、成人した三人は、のっぴきな

らない事態を通じて再び、深いかかわりを持つことになりませう。

ひとりは娘を殺された父親として、ひとりはその容疑者として、ひとりはその捜査を担当する刑事として、未見の方のために、これ以上の筋の紹介は控えましょう。この静謐なドラマを堪能するのに、ストーリーの紹介は邪魔になるばかりですから。

けれど、最初に挙げたように、ぼくにはこの映画のただ一点の瑕疵が気になつて仕方がなかつたのです。

それは、犯罪者がどうして、よりによってその夜に犯行に及んだのか、という点です。

ぼくにはそのことがどうしても納得できなかつたのです。

この瑕疵さえなければ、ぼくは、やはり少年時の性的虐待を重要なテーマとする

る映画「スリーパーズ」とならぶ傑作として、本作を挙げたかつたのです。

もうひとつ、一九九〇年代以降の米国映画は「スリーパーズ」もそうでしたが、『心的外傷』を話の骨法に据えたものがあまりに増えてしまったのではないのでしょうか。PTSD(心的外傷後ストレス症候群)、アダルト・チルドレン等に絡めた映画のなんと多いことが、ということなのです。

それは、一九八〇年代から米国で盛んに行われるようになった精神分析の手法である、記憶回復療法をめぐる矢幡洋と信田さよ子との最近の論争を見ても分かりますが、心理学が恣意的に扱われ過ぎているように思われるのです。

もうひとつ、恣意的に扱われている学問の代表に経済学が挙げられますが、それはまた、別の機会に触れましょう。

『ワイトンのバッグに鉾がない理由』 三遊亭らん丈

昨年、上方落語協会の会長に就任された桂三枝師匠は、落語界切つてのワイトナー(ワイトン商品偏愛家)です。

カバン、財布はもちろんのこと、

らん丈は、ただの一品たりともワイトンの商品を持つてはいませぬ。

それでも、ワイトンのバッグの底には鉾が打たれていないことは知っています。それはなぜでしょうか。おかしいと思いませんか。大抵のバッグの底には鉾が打たれているのに、ワイトンには一切と違っていいほど、鉾が打たれていないのです。

答えは簡単。ワイトンの購買者はワイトンのバッグを持たない、だから、鉾を打たないのです。

折角ワイトンのバッグを買ったのに、どうしてそのバッグを持たないのか、という疑問をお持ちになったあなたは、日本人の証拠です。

つまり、ワイトンの生産国フランスを始めとするヨーロッパは今でも階級社会ですから、階級によって買う商品も限定されます。

ですから、らん丈が属するような非富裕層は、間違つても決してワイトンの商品は買わないのです。

ワイトンの商品を買うのは、リッチなコンサバ(保守層)と相場が決まっていますから、彼らが買ったワイトンは召使

に持たせるか、あるいは車(昔は馬車)の助手席に置くかであって、決して自分で持とうとはしないのです。ですから、紙なんかいらなないので。召使が何時間バッグを持とうがそれは彼らになんの痛痒も与えせんから。

ところが、昨今の日本のキャンパスときたらヴィトンだらけですから、ヨーロッパの人たちが見たら、学生たちが貴族の末裔に見えるのか、それとも召使の集団に見えるのか、是非とも訊いてみたいところです。

もうひとつの要因は、平成不況に求められます。所得が減ったうえに、デフレゆえ可処分所得の価値が高まったために無駄なものには極力買い控える傾向が強くなりました。

その結果、買うならば、長持ちする製品を特定し、なおかつヴェブレン効果=「見栄のための消費」を満たすために、バッグという商品に、物を運ぶという意味に加えて、ブランド物を所持しているという効用を担わせようとしているのです。

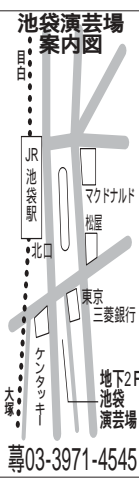
その結果、日本にブランドショップが増え、外国からはコートレンドリセッショ(優雅なる不況)と揶揄されるのです。

「どじまシヨウ」案内
二月二十八日(午後六時半)開演
池袋演芸場(左図参照)にて前売・千八百円

チャレンジ(Challenge)という言葉を「存知でしょうか。英和辞典を引くと、「婉曲」(身体上又は精神上)障害のある」という説明が付されています。ぼくはこの言葉を、神戸にある社会福祉法人の理事長を務める竹中ナミさんから教わりました。

十六年ほど前にアメリカで、「ハンディキャップ・ビートル」という呼称に代わって生まれたことばであり、「挑戦」という使命や課題、チャンスを与えられた人」という意味を持つ、「ザ・チャレンジ」という言葉に竹中さんは共感を覚えて、それからは「障碍者」ではなく、「チャレンジ」を使うようになったそうです。

その「チャレンジ」がヒタリ当てはまるのが今回のゲスト安積遊歩さんです。一度でも安積さんを知らなければ、彼女が持ったおやかにして雄大な精神の所在を、ありありと感得することが出来るはず。池袋演芸場最後の会にふさわしい、実に素晴らしいゲストですので、お見逃しなきように。



『らん丈ホームページのお知らせ』
落語会のお知らせや趣味の俳句、大学の授業で発表したレポート、某誌に連載中のエッセイ等を掲載しておりますので、どうぞアクセスしてください。メールマガジンの配信もしていますので、是非ご登録下さい。
<http://www.ranjo.jp/>

==== 次回より『新宿永谷ホール』にて開催! 6/15 ・ 10/27 予定 =====

「三遊亭らん丈」後援会入会要項

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。

年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う『どじまシヨウ』の入場券(二千円相当)を年間で二枚(四千円相当)差し上げます。

◎入会金二千円+年会費三年分一万二千元
一万八〇〇円、合計二万八〇〇円

年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費二年分八千元
七六〇〇円、合計九、六〇〇円

年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。

◎入会金二千円+年会費一年分四千元、合計六、〇〇〇円

会員証と後援会会報のみ御送ります。

振込先口座

郵便振替口座00100011730458

加入者名:三遊亭らん丈後援会

▶東京三菱銀行・町田支店

▶普通預金・1897690 三遊亭らん丈

▶みずほ銀行・町田支店

▶普通預金・8046459 三遊亭らん丈

▶三井住友銀行・町田支店

▶貯蓄預金・7264788 三遊亭らん丈

▶UFJ銀行・町田支店

▶貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈

▶りそな銀行・町田支店

▶普通預金・1093822 三遊亭らん丈

▶イーバンク銀行 <http://www.ebank.co.jp/>

支店番号209・口座番号1393592